

(様式第 1 号)

令和 2 年 10 月 12 日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : リハビリテーションに関する領域

科 目 名 : 生活支援のためのリハビリテーションの知識

単 位 数 : 2 (生活支援のための運動学と合わせて)

認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 学校法人川崎学園 川崎医療短期大学

団体事務所の所在地 : 〒 701-0194

岡山県倉敷市松島 316 番地

電話 : 086-464-1032

FAX : 086-463-4339

E-mail : shomu@jc.kawasaki-m.ac.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。



団体代表者 : 学 長 椿原 彰夫 ㊟

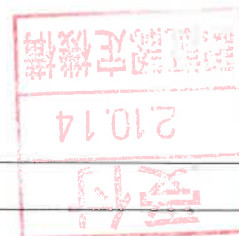
申請責任者 : 事務長 田中 俊行

記

○認定介護福祉士研修認証申請書 (別紙 1 ~ 3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	



(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	令和2年10月12日
申請団体名	学校法人川崎学園 川崎医療短期大学
申請団体代表者氏名	学長 椿原 彰夫
申請責任者職名	事務長
申請責任者氏名	田中 俊行
団体住所	〒701-0194 岡山県倉敷市松島 316 番地
同 Tel・Fax	Tel : (086)-(464)-(1032)
メールアドレス	Fax : (086)-(463)-(4339) E-mail <u>shomu@jc.kawasaki-m.ac.jp</u>
申請対象の領域	領域名 : リハビリテーションに関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 生活支援のためのリハビリテーションの知識 (2 単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	リハビリテーションに関する領域	
科目名	生活支援のためのリハビリテーションの知識	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	リハビリテーションの理念や知識を活用し、リハビリテーション職種と連携しつつ生活を支援することができる力を育成する。	
到達目標	<p>①リハビリテーションの理念とICF（国際生活機能分類）の考え方を理解し、生活リハビリテーションの視点を持つことができる。</p> <p>②関節・骨格筋・神経などの構造に関する知識を活用して運動学的に分析・評価する視点を持つことができる。</p> <p>③病的な状態であっても、可能な動作を考え、支援することができる。</p> <p>④心理的な知識・技術（人間関係論・コミュニケーション手法等）を活用し、利用者の意欲を引き出す視点を持つことができる。</p> <p>⑤リハビリテーション職種と連携・協働を行うために必要な視点や知識を習得し、連携・協働ができる。</p>	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<p>1. リハビリテーションの理念</p> <p>2. 心身の評価とアプローチ</p> <p>3. 各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係</p> <p>4. 運動学的視点を生活支援に活かす考え方</p> <p>5. 生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点</p> <p>6. 心理的な理解を生活支援に活かす考え方</p> <p>7. リハビリテーション職種との連携・協働を行</p>	<p>・リハビリテーションの理念と歴史、考え方</p> <p>・心身の評価方法 運動・感覚障害の評価演習 高次脳機能障害、心理面の評価演習 日常生活動作（ADL）の評価演習</p> <p>・生活支援とリハビリテーションの視点 日常生活動作の運動学的分析 日常生活動作の運動学的分析演習</p> <p>・ボディメカニクスの基本 ・ボディメカニクスを用いた基本動作</p> <p>・歩行補助具と移動補助具 ・障害特性にも届く介助方法の選択、補装具の使用、福祉用具の使用について</p> <p>・心理的知識・技術を用いて利用者の意欲を引き出す</p> <p>・リハビリテーションと多職種連携 事例検討による多職種連携演習</p>

	うために必要な視点と知識
研修方法	<input checked="" type="checkbox"/> 通学課程（集合研修） <input type="checkbox"/> 通信課程（通信研修） ○集合研修講義で行う。 ○参考図書：PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第3版 椿原彰夫他 診断と治療社
研修時間	20 時間
修了要件	○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭などやむを得ない事情による遅刻、早退については、合計 30 分（遅刻、早退それぞれ 15 分）を上限として認める。やむを得ない事情による 30 分以内の遅刻・欠席があった場合、該当科目の講師の資料またはテキストによるレポート課題を提出する。 ○筆記試験で 100 点満点中 60 点以上を得点し、合格すること。 ○運動学的視点（ボディメカニクス）についての実技試験を実施する。実技試験で 100 点満点中 60 点以上を得点し、合格すること。
講師要件（講師の選定基準）	・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者 ・修士課程または博士課程を修了している者
(2) 受講者について	
受講対象（受講要件）	川崎医療短期大学医療介護福祉科 3 年次生
修了評価（習得度、研修成果）	< 試験による評価 > 筆記試験（50 問程度）100 点満点 100 点～80 点を優、79 点～70 点を良、69 点～60 点を可、59 点以下を不可とする。不可（59 点以下）の場合は、再試験を行う。 優～可（100 点満点中 60 点以上）で修了とする。 < 実技試験による評価 > 実技課題への評価（10 問程度から 2 問選択する）により行う。 100 点～80 点を優、79 点～70 点を良、69 点～60 点を可、59 点以下を不可とする。不可（59 点以下）の場合は、再試験を行う。 優～可（100 点満点中 60 点以上）で修了とする。 < 評価基準 > ①リハビリテーションの理念と ICF の考え方を理解し、生活リハビリテーションの視点を持つことができる。 ②関節・骨格筋・神経などの構造に関する知識を活用して、運動学的に分析・評価する視点を持つことができる。 ③病的な状態であっても、可能な動作を考え、支援することができる。 ④心理的な知識・技術を活用し、利用者の意欲を引き出す視点を持つことができる。 ⑤リハビリテーション職種と連携・協働を行うために必要な視点や知識を習得し、連携・協働ができる。
(3) 研修の環境条件	

定員（講師の配置基準）	50名（講師5名）演習時も同じ講師で行う。
開催場所（都道府県）	川崎医療短期大学（岡山県）

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 令和5年4月～6年3月
	② 令和6年4月～7年3月
	③ 令和7年4月～8年3月
開催場所 (会場)	① 川崎医療短期大学
	② 川崎医療福祉大学
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	担当講師 (講義・評価) : 藤田 大介 博士 (リハビリテーション学)
	【職歴】
	平成6年～ 大阪市更生療育センター 理学療法士 平成9年～ 大原記念病院 理学療法士 平成12年～ 島根リハビリテーション学院 専任教員 平成18年～ 川崎医療福祉大学医療技術学部リハビリテーション学科 講師 平成26年～ 川崎医療福祉大学医療技術学部リハビリテーション学科 准教授 平成31年～ 川崎医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科 教授 (現在に至る)
	【講師経験・社会活動等】
	【講師経験】 平成12年～ 島根リハビリテーション学院 専任教員 平成18年～ 川崎医療福祉大学医療技術学部リハビリテーション学科 講師 平成24年11月 第28回日本義肢装具学術大会 褥瘡予防と福祉用具 平成26年～ 川崎医療福祉大学医療技術学部リハビリテーション学科 准教授 平成29年10月 公益財団法人介護労働安定センター研修会 シーティングの基本 平成31年～ 川崎医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科 教授
	【主な資格】 理学療法士、専門理学療法士 (生活環境支援理学療法) 介護支援専門員、福祉用具プランナー、シーティング・コンサルタント
	【社会活動】 平成27年6月～ 岡山県理学療法士会理事
	【所属学会】

	<p>・日本支援工学理学療法学会、日本シーティング・コンサルタント協会</p> <p>【著書等】</p> <p>・シーティング技術のすべて 医歯薬出版株式会社, 東京 pp. 32-36 2020</p> <p>・The influence of cane tip mobility on the activities of the upper limb muscles and the load amount on the cane during walking Kawasaki Journal of Medical Welfare 24(1) pp.27-32 2018</p> <p>・The Influence of Rollators with Forearm Support on Walking Speed, Endurance and Dynamic balance Journal of Physical Therapy Science 24(8) pp.667-670 2012</p> <p>主な研究業績 https://kwweb-res.kawasaki-m.ac.jp/kwmhp/KgApp?section=15&kyoinId=ymdoygoyggy</p>
担当、氏名及び略歴	<p>担当講師（講義・評価）： 小原 謙一 博士（保健学）</p> <p>【職歴】</p> <p>平成 14 年：特定医療法人 仁生会 細木病院 平成 17 年：川崎医療福祉大学医療技術学部リハビリテーション学科 助手・助教 平成 22 年：川崎医療福祉大学医療技術学部リハビリテーション学科 講師 平成 28 年：川崎医療福祉大学医療技術学部リハビリテーション学科 准教授 平成 30 年：川崎医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科に名称変更（現在に至る）</p> <p>【講師経験・社会活動等】</p> <p>【講師経験】 平成 17 年～川崎医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科（現在に至る） 平成 26 年：第 30 回日本義肢装具学会学術大会 臀部ずれ力軽減を目的とした車いすシーティング 平成 29 年：第 7 回 訪問リハビリテーション実務者研修会 基本動作のメカニズムを理解し、動作の問題点を捉える 令和元年：公益財団法人介護労働安定センター研修会 「座らせきり」の弊害としての褥瘡の基礎知識と予防</p> <p>【担当科目】 学部担当科目：理学療法評価学Ⅱ、理学療法研究Ⅱ、地域生活環境論</p>

	<p>大学院担当科目：理学療法学実習 A・B</p> <p>【主な資格】 理学療法士、専門理学療法士（生活環境支援）、福祉住環境コーディネーター1級、シーティング・コンサルタント、日本義肢装具学会認定士</p> <p>【所属学会】 日本支援工学理学療学会、日本義肢装具学会、日本褥瘡学会、日本シーティング・コンサルタント協会</p> <p>【著書等】 ・臨床実習で役立つリハビリテーション基本実技 診断と治療社，東京，pp.22-36 2016</p> <p>【論文】 ・An investigation into the effectiveness of a novel wheelchair seat-cover assembly for the reduction of forces exerted onto the buttocks. Disabil Rehabil Assist Tech: in press, 2020 ・Development of a seat cover for a wheelchair on back support for decreasing shear force applied to the buttocks during reclining back support. Kawasaki J Med Welf 24: 61-69, 2019 ・背もたれ傾斜中における臀部ずれ力の変動と背もたれ上での体幹の上方滑りのタイミングとの関係. 義装会誌 35: 302-308, 2019</p> <p>主な研修業績 https://kwweb-res.kawasaki-m.ac.jp/kwmhp/KgApp?section=15&kyoinId=ymdyoyeggy</p>
担当、氏名及び略歴	<p>担当講師（講義・評価）： 永田 裕恒 修士（リハビリテーション学）</p> <p>【職歴】 平成 16 年～ 社会福祉法人 旭川荘療育・医療センター 平成 29 年～ 川崎医療福祉大学 医療技術学部 リハビリテーション学科 助教（現在に至る）</p> <p>【講師経験・社会活動等】</p> <p>【講師経験】 平成 25 年 4 月～ 島根リハビリテーション学院非常勤講師（平成 28 年 3 月まで） 平成 29 年～ 川崎医療福祉大学医療技術学部リハビリテーション学科 助教</p> <p>【担当科目】 臨床基礎実習 I・II、理学療法評価学実習 I・II、理学療法技術実習 I</p> <p>【主な資格】</p>

	<p>理学療法士、3学会合同呼吸療法認定士</p> <p>【社会活動】 平成 29 年 4 月～ 岡山県理学療法士会社会局局員</p> <p>【所属学会】 日本理学療法士協会、日本シーティング・コンサルタント協会、日本重症心身障害学会、川崎医療福祉学会、日本義肢装具学会</p> <p>【著書等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Influence of the Use of Transfer Aid on Muscle Activity during Standing Motion Assistance. Kawasaki J Med Welf 25: 29-34, 2020 ・ 在宅重症心身障害児の保護者を対象とした座位保持装置使用に関する満足度調査と座位保持装置に必要な構成要素についての検討. 川崎医療福祉学会誌 29: 119-125, 2019 ・ 重症心身障害児における姿勢の違いが自律神経活動に与える影響. 理学療法科学 33: 653-657, 2018 ・ 座位保持装置使用時における重度な障がいをもつ子どもの坐骨部圧力と左右対称性の特徴. 車椅子シーティング研究 2: 23-27, 2017 <p>主な業績 https://kwwweb-res.kawasaki-m.ac.jp/kwmhp/KgApp?section=15&kyoinId=Kgyydssi</p>
担当、氏名及び略歴	<p>担当講師（講義・評価）： 平田 淳也 博士（リハビリテーション学）</p> <p>【職歴】</p> <p>平成 19 年～ 笠岡第一病院（作業療法士）入職 平成 27 年～ 川崎医療福祉大学医療技術学部リハビリテーション学科（助教）入職 平成 30 年～ 川崎医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科 講師（現在に至る）</p> <p>【講師経験・社会活動等】</p> <p>【講師経験】 平成 27 年～ 川崎医療福祉大学医療技術学部リハビリテーション学科（助教）入職 平成 30 年～現在 認定作業療法士取得研修講師 平成 30 年～ 川崎医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科 講師</p> <p>【主な担当科目】 運動学、評価学、臨床基礎実習</p> <p>【主な資格】 作業療法士、認定作業療法士、福祉用具プランナー、カラーコーディネーター2級</p>

	<p>【所属学会】 平成 21 年～ 日本作業療法士協会、岡山県作業療法士会 平成 27 年～ 日本義肢装具学会 平成 31 年～ 食と生活リハビリテーション研究会</p> <p>【社会活動等】 平成 26 年～ 日本作業療法士学会演題査読委員 平成 27 年～ 岡山県作業療法士会事業部 平成 29 年～ 「作業療法おかやま」論文査読委員 岡山県作業療法学会演題査読委員</p> <p>【著書等】 1. 平田 淳也, 小原 謙一, 鈴木 啓太, 井上 桂子. 座位作業時における体幹を前方から支持する補助具の影響. 作業療法 38(3):371-378, 2019. 2. 平田 淳也, 井上 桂子, 鈴木 哲. バランスチェアが VDT 作業時の頸部の筋活動に与える影響. 日本義肢装具学会誌 34(2):150-153, 2018</p> <p>主な業績 https://kwweb-res.kawasaki-m.ac.jp/kwmhp/KgApp?section=15&kyoinId=Kgyyksys</p>
担当、氏名及び略歴	<p>担当講師（講義・評価）: 小池 康弘 修士（作業療法学）</p> <p>【職歴】 平成 23 年～ 倉敷リハビリテーション病院 作業療法士 平成 29 年～ 川崎医療福祉大学医療技術学部リハビリテーション学科 助教 平成 30 年～ 川崎医療福祉大学リハビリテーション学部作業療学科に名称変更（現在に至る）</p> <p>【講師経験・社会活動等】</p> <p>【講師経験】 平成 29 年～ 川崎医療福祉大学医療技術学部リハビリテーション学科</p> <p>【主な担当科目】 日常生活活動学実習 平成 29 年 倉敷市大腿骨頸部骨折地域連携パス研修会 リハビリテーション分野における心理学 平成 31 年 岡山県作業療法士会 現職者選択研修 身体障害領域の基礎知識</p> <p>【主な資格】 作業療法士</p> <p>【社会活動】 岡山県作業療法士会 教育部 部員</p>

	<p>【所属学会】 日本作業療法士協会、日本社会医学会、日本学校保健学会</p> <p>【著書等】 Examination of the Robustness of the Resilience Scale Using Multigroup Analysis, Kawasaki Journal of Medical Welfare,25(2),35-41,2020</p> <p>高校生対人ストレス尺度の項目特性および因子不変性の検討,社会医学研究,35(1),37-43,2018</p> <p>回復期リハビリテーションにおける患者の訓練動機づけ尺度の試作版の開発,川崎医療福祉学会誌,27(2),403-411,2018</p> <p>主な研究業績 https://kwweb-res.kawasaki-m.ac.jp/kwmhp/KgApp?section=15&kyoinId=Kgyydssd</p>
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	川崎医療短期大学 医療介護福祉科
研修の企画運営に関する 諸規程	川崎医療短期大学学則、川崎医療短期大学履修規程
研修管理責任者職名	川崎医療短期大学 医療介護福祉科 主任
研修管理責任者氏名	山田 順子
機構問合先部署	川崎医療短期大学 医療介護福祉科 主任
機構問合先担当者氏名	山田 順子
機構問合先電話番号/FAX	Tel 086-464-1032 / Fax 086-463-4339
機構問合先 e-mail アドレス	yamada@jc.kawasaki-m.ac.jp
受講問合先部署	川崎医療短期大学 事務室
受講問合先担当者氏名	大戸 知子
受講問合先電話番号/FAX	Tel 086-464-1032 / Fax 086-463-4339
受講問合先 e-mail アドレス	shomu@jc.kawasaki-m.ac.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	川崎医療短期大学事務室
受講履歴の管理方法	学校法人川崎学園大学事務局情報システム室が管理している学務管理システム及び電子出席簿システムを使用する。システムデータは原則永年保存とする（最低 10 年）。個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	卒業時または退学時に研修修了証を発行する。
管理責任者氏名	事務室 事務長 田中 俊行
管理担当者氏名	事務室 大戸 知子

(別添資料)

集合研修における具体的なコマシラバス

申請対象の領域 リハビリテーションに関する領域

科目名 生活支援のためのリハビリテーションの知識

集合研修の総時間数 20 時間

第 1 回授業 (2 時間)

時間	テーマ	展開内容 (講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師 (補助講師)
8:45~10:15	リハビリテーションの 理念と歴史、考え方	リハビリテーションの理念と歴史、考え方を講義で説明する。 リハビリテーションの理念と歴史、定義について説明する。リハビリテーションの分野と関連職種、関連法規を説明する。	参考図書 PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第3版 椿原彰夫他 診断と治療社 2017	藤田大介

第 2 回授業 (2 時間)

時間	テーマ	展開内容 (講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師 (補助講師)
8:45~10:15	心身の評価	心身を評価するための各種評価方法を説明する。 意識障害・運動機能障害・感覚障害・高次機能障害・心理障害・ADL の各種評価方法を説明する。評価結果の確認、解釈とそれにもとづいたリハビリテーション	参考図書 PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第	小原謙一

		アプローチを説明する。	3 版 椿原彰夫他 診断 と治療社 2017	
--	--	-------------	---------------------------	--

第 3 回授業 (2 時間)

時間	テーマ	展開内容 (講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師 (補助講師)
8:45~10:15	運動・感覚障害の評価 演習	関節可動域、筋力、筋緊張等の運動機能や感覚の評価方法を演習によって確認する。 関節可動域検査や徒手筋力検査法、筋緊張検査 (触診や筋伸張性評価) の方法と注意点を実技によって確認する。触覚検査や痛覚検査、運動覚検査の方法と注意点を実技によって確認する。		平田淳也

第 4 回授業 (2 時間)

時間	テーマ	展開内容 (講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師 (補助講師)
8:45~10:15	高次脳機能障害、心理面の評価演習	高次脳機能障害、心理面の評価方法を演習によって確認する。 言語障害、失行、失認、注意障害や記憶障害に対する評価方法を実践によって確認する。心理評価の方法を実践によって確認する。		小池康弘

第 5 回授業 (2 時間)

時間	テーマ	展開内容（講義ポイントや演習の展開内容）	留意事項等	担当講師 （補助講師）
8:45～10:15	日常生活動作、手段的日常生活動作（ADL・APDL）の評価演習	バーセルインデックスやFIM、Lawtonの尺度の評価方法を演習によって確認する。 バーセルインデックスとFIMを中心に日常生活動作（ADL）全体を評価する方法を実践によって確認する。 Lawtonの尺度による手段的日常生活動作の評価方法を実践により確認する。		小池康弘

第6回授業（2時間）

時間	テーマ	展開内容（講義ポイントや演習の展開内容）	留意事項等	担当講師 （補助講師）
8:45～10:15	生活支援とリハビリテーションの視点	生活支援に活かす運動学的視点について説明する。 臥位・座位・立位などの姿勢、寝返り・起き上がり・立ち上がり、歩行などの基本動作と姿勢を分析する視点について説明する。基本動作と姿勢の理解にもとづく、介助方法の選択や福祉用具の適合・使用について説明する。		永田裕恒

第7回授業（2時間）

時間	テーマ	展開内容（講義ポイントや演習の展開内容）	留意事項等	担当講師 （補助講師）
8:45～10:15	日常生活動作の運動学	日常生活動作を運動学的に分析する目的と方法を説明		永田裕恒

	的分析	する。 食事・更衣・整容・排泄・入浴・移乗などの日常生活動作を分析する視点について説明する。日常生活動作の理解にもとづく、介助方法の選択や福祉用具の適合・使用について説明する。		
--	-----	---	--	--

第8回授業（2時間）

時間	テーマ	展開内容（講義ポイントや演習の展開内容）	留意事項等	担当講師 （補助講師）
8:45～10:15	日常生活動作の運動学的分析演習	日常生活動作の運動学的分析を演習によって確認する。 食事・更衣・整容・排泄・入浴・移乗・歩行・階段昇降などの各動作について、動作観察やストップウォッチを用いた時間の測定を行う。各動作の方法を詳細に分析し解釈する実践方法を確認する。 運動学的視点（ボディメカニクス）についての実技試験を実施する。		永田裕恒

第9回授業（2時間）

時間	テーマ	展開内容（講義ポイントや演習の展開内容）	留意事項等	担当講師 （補助講師）
8:45～10:15	リハビリテーションと多職種連携	リハビリテーション職種と多職種連携の在り方を説明する。	参考図書 PT・OT・ST・ナースを目	藤田大介

		様々なリハビリテーション関連職種の役割を説明する。病院、施設、地域で異なる専門的背景を持っている専門職が、連携して共有の目標に向けて働く必要性について説明する。	指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第3版 椿原彰夫他 診断と治療社 2017	
--	--	--	--	--

第10回授業（2時間）

時間	テーマ	展開内容（講義ポイントや演習の展開内容）	留意事項等	担当講師 (補助講師)
8:45～10:15	事例検討による多職種連携演習	グループでの事例検討によって、多職種による連携を確認する。 脳卒中片麻痺や関節リウマチなどの事例提示を行う。 事例に対する心身の評価とアプローチを理解し、リハビリテーション関連職種と協働するために必要な視点を踏まえた討議を行う。発表形式による全体討論を行う。 心理的知識・技術に関する、コミュニケーション技術（共感、傾聴、アサーション等）、人間関係論、人間発達論、社会発達論を活用して、利用者の意欲を引き出す関わりを考える。	修了評価：期末定期試験 期間中に実施する。	藤田大介